

## 第3回サイバーポート検討WG（港湾管理分野）議事メモ

### 【意見交換】

#### （委員）

港湾行政手続の電子化について、単に書類のやり取りのみならず、最終的に申請を行うまでに様々な打合せや協議を行う手続もあり、そのような手続までシステム化することが果たして効率的か、疑問に思うところがある。全ての手続をシステムで電子化するにしても、可能であれば、手続毎に、利用するか否か、港湾管理者が選択できるようにしてほしい。もう1点、調査・統計業務の効率化について、システムにより作業が省力化されることを期待しているが、システム化以前に、品目分類や重量単位が港湾統計とNACCSとで異なっているなど、根本的な部分で見直しが必要と考えている。

#### （委員）

港湾行政手続の電子化について、港湾管理者から申請者への承認行為は画面上で完了するのか、改めて紙ベースとなるのか、教えていただきたい。2点目に、調査・統計業務の効率化について、各報告者から港湾管理者がデータを集める形になると思うが、各報告者が自社のPCに入力したものが自動的にシステムに集計されるのか、教えていただきたい。3点目に、費用負担について、利用頻度に応じて使用料をとるイメージなのか、教えていただきたい。

#### （委員）

実態把握調査の結果を見て、かなり整理されてきたと感じる。一方で、当該整理結果の内容について、我々の港ではその多くが既に電子申請に対応しており、今後、システムを構築するにあたり、各港湾の既存システムとの連携について、引き続き擦り合わせをお願いしたい。

#### （委員）

調査・統計業務の効率化について、港湾関連手続情報がNACCS及び連携基盤を通じて調査票に反映されることとなっているが、我々の港では、国内コンテナやフェリー物流も主流であり、そういった内航貨物に関するデータも対象になるのか教えていただきたい。また、今後のスケジュールについて、2021年度の半ば以降にシステムの設計・構築・テストとあり、デモンストレーションもこれに含まれると思うが、システムの本格稼働に支障をきたすことの無いよう、各港湾管理者のスキル向上の観点からも十二分に期間をとっていただきたい。

#### 【事務局】

まず、港湾管理者による手続毎の利用の選択について、基本的にはシステムをご利用いただくことで考えているが、どうしても馴染まない場合は、最終的には各港湾管理者の判断になる。港湾統計とNACCSとの情報項目について、異なる面もあると認識しており、BPRに該当すると思うが、システム化にあたり、できるだけ共通部分を見出して構築していきたい。また、港湾管理者による承認について、電子的にシス

テムで行っていただくことを前提に構築する予定である。港湾統計の各報告者の入力方法について、今後、関係者に話を伺っていくが、基本的には各報告者が直接システムにデータを入力いただくイメージである。使用料について、現時点でお示しできるものはなく、今後検討していきたい。また、各港湾の既存システムとの連携について、先行投資してシステムをつくられている港もあるので、是非、連携させていただきたい。また、NACCS等の手続情報の調査票への反映について、既存データの再利用が情報化のメリットの1つではあるが、NACCSは主に輸出入のためのシステムであり、全てを網羅的に反映できるものではないので、国内の情報など、必要に応じて入力いただく必要があると考えている。各港湾管理者のスキル向上のための期間の確保について、港湾統計に係る業務は法定業務なので、間違いが起こらないよう、できるだけ期間を確保したい。

#### (委員)

調査・統計業務の効率化について、作業の省力化が進むと期待している。また、港湾行政手続の電子化について、我々の港では利用者の料金算出を手計算で行っているため、可能であれば料金算出もシステムの機能に含めていただきたい。

#### (委員)

港湾行政手続の電子化について、システムの導入により、手続作業が軽減できるものと期待しているが、電子手続に不慣れで書面を希望する申請者もいると思うので、書面で受けつけたものを港湾管理者側でシステムに追加入力できるようにしていただきたい。同様に、港湾管理者による承認についても、画面での表示に加えて、書面で印刷して申請者に通知できるようにしていただきたい。もう1点は質問だが、手続の電子化に関する「汎用業務」と「個別業務」を分けた意義について教えていただきたい。

#### (委員)

港湾行政手続の電子化について、申請後の決裁、許可といった港湾管理者の内部手続をどのように検討しているのか、教えていただきたい。また、調査・統計業務の効率化について、NACCSと港湾統計では情報項目が異なるが、報告者はNACCSを利用しているので、港湾統計に関する項目をNACCS上で必須項目として入力いただくような調整を期待している。

#### (委員)

やはりどうしても紙ベースによるものが残ると思うので、できるだけシステムを使ってもらうために、システムに誘導する取組が必要と考えている。また、調査・統計業務の効率化について、作業が省力化されることを期待しているが、既存の共通集計システムについても、一部では使っていないところもあると伺っており、我々の港でも、使い勝手の関係から、最新のものではなく、1つ前のものを使っている状況なので、やはり使い勝手を良くするために、デモンストレーションを行っていただきながら、よく意見交換させてほしい。

#### (委員)

港湾行政手続の電子化について、これまでの議論で申し上げたような機能の場合分けについて整理い

ただき感謝。最終的に利用者に便利に利用いただくことが目的なので、既にご意見があったように、紙が残る部分も含めて、使い勝手がよくなるよう、引き続き利用者のご意見を聞いていただきたい。もう1点、調査・統計業務の効率化について、我々の港の発着貨物のうち、他県で通関されたものについてもNACCSデータを補足できればと考えている。その場合に別途コストがかかるようであれば、運用の円滑化が図れないと考えており、そういった課題への対応をお願いしたい。

### 【事務局】

料金の算出機能について、引き続き皆様のご意見をいただきながら、基本的には具備する方向で検討したい。また、書面での申請内容について、港湾管理者側のシステムへの追加入力が可能となるよう対応したい。港湾管理者による承認内容の印刷・通知について、電子申請された方がサービスとして紙が必要ということであれば、検討したい。汎用業務の具体的内容について、今後の検討事項だが、図面等の添付書類も含めてWebメールのように送受信するような形もあると考えており、今後、皆様のご意見をいただきながら決めていきたい。また、港湾管理者の内部手続について、港湾管理者によって様々なパターンがあり、包括的に対応可能かというところもあり、この点はまたご相談させていただきたい。NACCSと港湾統計の情報項目の違いについて、NACCS側とも相談しながら、できるだけ共通化するような仕組みづくりを検討したい。また、システムの利用への誘導について、システムを使えば便利、といった利便性向上の機能をいかに実現するかというところと考えている。港湾統計の機能の使い勝手について、できるだけ良いものとするとともに、練習するための期間を確保していきたい。また、利用者のご意見について、使っていただけるようなものとするよう、幅広く対応できるようにしたい。他県通関の貨物データの取扱いについて、ケースバイケースとの認識だが、どのようなものが発生するのか、皆様のご意見を伺いながら検討していきたい。

### (委員)

港湾行政手続の電子化については、NACCS対象外手続も含めて、Cyber Portにおいてワンストップサービスを受けられることを期待している。その関係で、資料中に、システムの利便性の向上として、対象施設の仮予約や港湾管理者による自動応答を可能にするところがあるが、例えば岸壁において、複数の業者が重複して仮予約を行うことで混乱が生じることも想定されるため、適切なルール構築も併せて考えていただきたい。2点目として、中長期的に紙申請を削減し、電子システムを利用することが重要な要素であることから、システム化に誘導すべく、利用するメリットとして、例えばデータのエラーチェック機能や時間外窓口対応機能など、付加価値を考慮した機能構築を目指していただきたい。最後に、調査・統計業務の効率化については、現在の煩雑となっている業務が効率化されることを期待する。

### (委員)

令和3年度の上半期目途に行うこととなっているヒアリングについて、できるだけ広範囲の民間事業者へ声をかけていただき、多様な意見をくみ上げていただきたい。

### (委員)

加盟店社においては、業務がシステム化され、ターミナル代理店部門、物流部門と連携する自社システ

ムを運用している店社が多くある。将来的に連携基盤と連携するとなると、既存システムとの重複部分が出てくるので、それを避けるべく、システムを改修する必要性に迫られる可能性を心配しているところがある。一方で、NACCS との連携部分が多くなること、また Web 上で API 連携による操作が可能になることとなればありがたいという意見も寄せられている。早めの情報展開をお願いしたい。2 点目として、将来的に自社システムと連携するとなると、各社とも費用を計上する必要がある、電子化導入に伴う費用を低廉化すべく、4 月から稼働する Cyber Port にも補助金に相当するものがあるが、同様に係る補助金の確保・運用をお願いしたい。最後に、下半期以降のシステム構築の取組について、テスト検証等、できる限り協力していきたいが、一方で、将来的な行政側の対応の仕方についても、業務項目の必要/不要の部分まで検討を踏み込んでいただきたいと考えている。

### (委員)

NACCS は我が国の総合物流情報プラットフォームであり、輸出入申告の手続については、ほぼ 100% が電子的に処理されている。また、港湾行政手続を含めて、関係省庁や民間業務も幅広く取り扱っているところ、今般、国交省の判断もあって、NACCS の対象手続に含まれていない港湾行政手続についても Cyber Port で推進していくということで、NACCS と Cyber Port が相互に補完されることにより、一層我が国の貿易が円滑化されることを期待しており、引き続き協力して我が国の発展に尽力していきたい。

### (委員)

まず、港湾統計については、平成十数年当時に港湾局と財務省関税局の間で協議が行われ、その結果に従って NACCS に入力されたデータを加工して提供している。NACCS は輸出入に係る行政手続、特に通関の手続を中心に取扱っており、(港湾統計の) 報告者たる船会社から提出されるコンテナのマニフェスト等を、個別の船会社の了解を得たうえで加工し港湾管理者に港湾統計の基礎資料の一部として使っている。基本的に NACCS は手続に係るシステムであり、各事業者から提出された手続情報の活用については、今後も何か「こういったことができる」ということがあれば、関係者の了解を得つつ、できることは対応していきたい。また、港湾統計以外の連携基盤システムとの連携についても、利用者の方に使いやすいシンプルな仕組みが良いと思われるので、様々協議させていただきながら、我々としても協力していきたい。

### (委員)

情報連携というところで、資料中に施設 ID について言及されているが、例えば船舶の情報についても、逐一システムに手入力してもらうのではなく、自前で用意するか他のものを参照するかはともかく、船舶コードやその他 Cyber Port として必要なもののデータベースを整備することが重要と考えられる。また、調査・統計業務の効率化について、当然、既存の業務はしっかり電子化いただきつつ、BPR の視点も持って取り組んでいただきたい。そのうえで、データの利活用をいかに行うかといった、電子化の先の視点も持って取り組んでいただきたい。

### 【事務局】

対象施設の仮予約について、ご指摘のとおり、適切なルール構築を行い、混乱しないよう今後調整して

いきたい。システム化への誘導について、システムを利用しやすいよう、ヘルプデスクやエラーチェック、時間外対応等の機能について検討していきたい。また、民間事業者へのヒアリングについて、できるだけ幅広くご意見を吸い上げていきたい。また、システム連携に係る補助金について、本日もご意見を賜ったので今後検討していきたい。将来的な行政側の対応の検討について、しっかりと取り組んでいきたい。また、本日の議論で伝えられなかった部分については、今後メール等で情報提供いただければ幸いである。我々としても、世の中にとって便利なシステムを構築したく、なるべく早い段階で情報を集め、設計に反映したいと考えている。まずはなるべく便利に、という発想で検討したうえで、どの程度費用が発生し、利用料金に跳ねるかという視点から、優先度が高い機能を絞り込みたいと考えている。

#### (座長)

本日、事務局が提示した機能の素案は粗々のイメージであり、まだまだこれから検討を進めていくものということで、本日の議論に限らず、皆様のご質問やご意見について、今後とも事務局までお寄せいただければと考えている。また、事務局側も、そういったご意見を聞きながら、なるべく生産性の高いものをつくっていただきたい。先ほど委員からご意見があったように、どのようにデータの利活用を図るかという観点も必要なので、そういった視点も十分に持っていただきたい。また、本日の議論では、利用者の方がシステムに不慣れな場合、最初は戸惑いもあるだろうということで、紙ベースのものを残すか、どのようにシステムに入力するかなどのお話があった。事務局や各港湾管理者の皆様にも様々な悩みや考えがあり、システムとしてフレキシブルなものが求められるとも思うが、一方で、将来を考えると、ある程度は共通の枠組みの中に誘導していく必要もあるのではないかと考えている。また、個々の手続や統計事務について、日頃から悩ましい部分もあり、本日様々なご意見をいただいたと思うが、港湾関連データ連携基盤という1つの情報プラットフォーム上において、皆様が各々に直面されている課題を克服していくような創意工夫、場合によっては自らのアプリをつくるような感覚で、データ連携基盤の利活用を考えていただければと思う。議論は始まったばかりであり、引き続きよろしくお願ひしたい。